

JA共済の社会貢献活動について

全国共済農業協同組合連合会
制度対策部 社会貢献室 服部 彰彦

1. 社会貢献活動の考え方

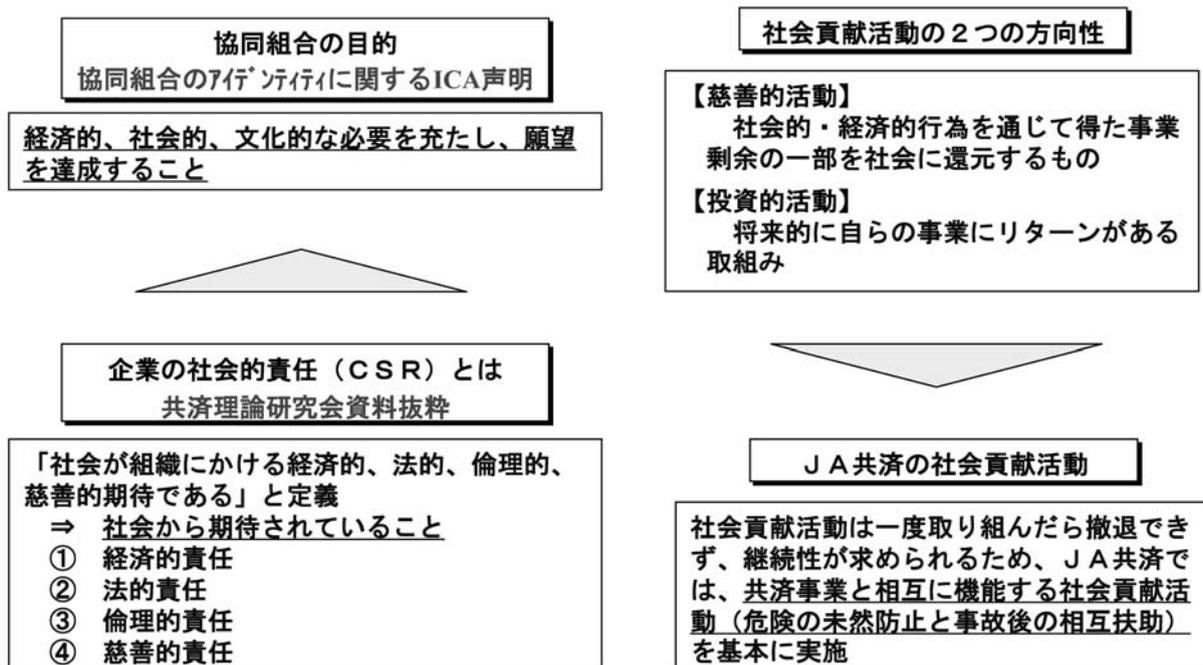
図1左下は、民間企業における「企業の社会的責任（CSR）」といわれている4つの責任についてです。いわゆる社会貢献活動とは、④の慈善的責任として民間企業が実施しているものです。この4つの責任のうち、①の「経済的責任」が企業に対する社会の期待が最も高く、①～④の順番で社会の期待は低くなっています。つまり、④に該当する社会貢献活動は、社会の期待はあるものの、期待の度合いはこの4つの中では、一番低くなっており、それがゆえ、あまり積極的には取り組んでい

ない企業も多く存在しています。

これに対し、協同組合については、図1左上ですが、1995年の「協同組合のアイデンティティに関するICA声明」において「協同組合の目的」として、先ほどの4つの責任と同じような記載があります。

協同組合の場合は、「協同組合の目的」の中に「社会的・文化的」という表現があり、「社会貢献活動」もこの中に含まれると考えられますが、こちらは「目的」ですから、やってもやらなくてもいいことではなく、達成することが求められます。ここが、民間企業とは大きく異なるところです。

図1 社会貢献活動の考え方



次に、図1右上の「社会貢献活動の方向性」についてです。社会貢献活動は大きく分けると2つの方向性があると言われていています。一つは、慈善的活動と言われるもので、企業が事業で得た剰余の一部を社会に還元する活動です。昔から多くの企業が本来事業とは直接関係ない慈善的活動を実施してきました。

もう一つの方向性は、投資的活動と言われるもので、これは将来的に自らの事業にリターンがある取組みであり、最近はこちらの活動を志向する企業が増えています。

J A 共済では、この2つの方向のうち、後者の活動を志向しており、万一の場合の保障提供を行う、本来事業と関連する、事故の未

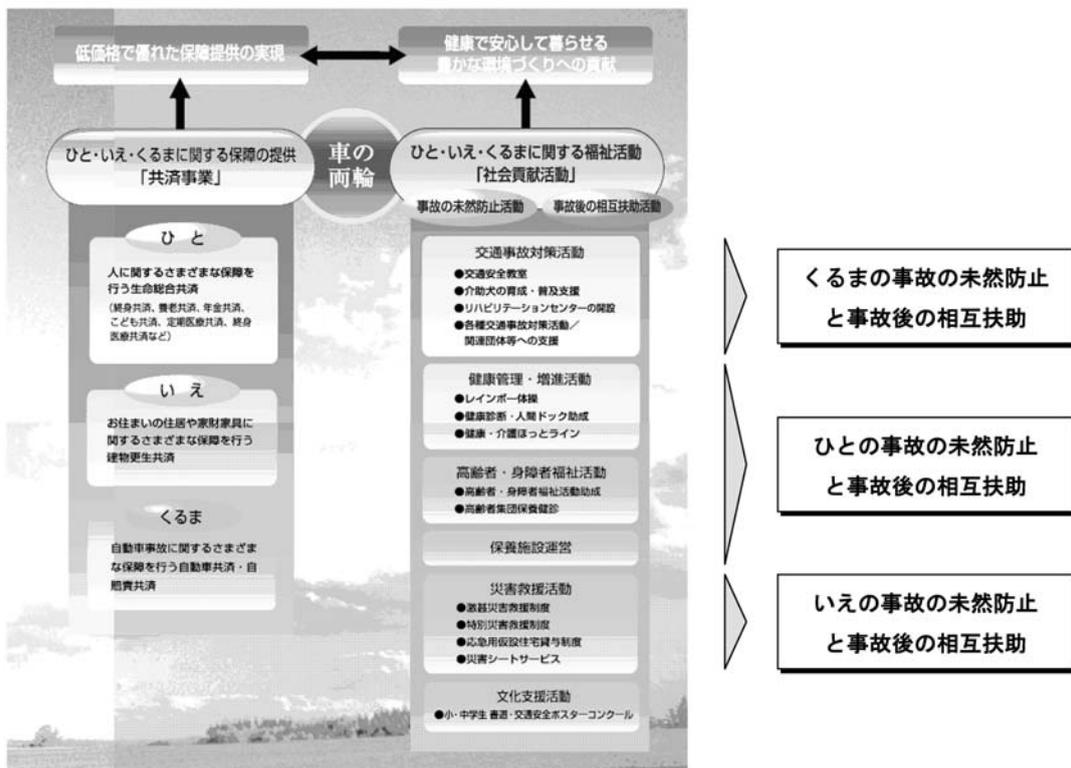
然防止と事故後の相互扶助という2つの観点から様々な取組みを展開しています。

2. 共済事業と社会貢献活動の関係

事故の未然防止と事故後の相互扶助という2つの観点を図にしたものが、次の「共済事業と社会貢献活動の関係」です。図2の左上にある「低価格で優れた保障提供の実現」はこれまでJ A 共済が目指してきたことです。図2右上にある「健康で安心して暮らせる豊かな環境づくりへの貢献」はJ A グループが目指してきたことです。

この2つの目的を達成するために、「ひ

図2 共済事業と社会貢献活動の関係



と・いえ・くるま」に関する保障の提供と合わせて、車の両輪の関係で事故の未然防止と事故後の相互扶助の観点から「ひと・いえ・くるま」に関する社会貢献活動として様々な活動を展開しています。

「交通事故対策活動」は「くるま」の事故の未然防止と事故後の相互扶助、「健康管理・増進活動」「高齢者・身障者福祉活動」「保養施設運営」は「ひと」の事故の未然防止と事故後の相互扶助、そして「災害救援活動」は「いえ」の事故後の相互扶助活動として実施しているものです。

3. 交通事故対策活動について

ここからは、具体的な活動内容についてご紹介します。交通事故対策活動としては、交通事故の未然防止活動と事故が起こった後の交通事故被害者支援活動を実施しています。

まず、図3左側の交通事故の未然防止活動についてですが、日本では、警察庁などによる各種交通規制や取締り強化により、年々交通事故による死亡者数は減少傾向にあります。年代別に死亡事故の状況を見ると幼児は横ばいで、高齢者は増加傾向にあります。このため、JA共済では、幼児と高齢者の交通安全対策に力を注いでいます。

幼児は、集中力がないため、楽しく交通ル

図3 交通事故対策活動

交通事故を防ぐために

幼児向け交通安全教室（ミュージカ）の全国展開



年間50回実施

高齢者向け交通安全教室の全国展開

交通安全教室のプログラム（例：90分）（ ）は実施時間の目安です

●交通安全講話（15分） 地域の警察、交通安全協会の方による講話	●交通安全体操（15分） 加齢にともなう身体機能の低下を予防する「交通安全レインボー体操」
●反射リストバンドの配布（5分） 夜道での交通事故を防止するために	●交通安全落語（30分） 交通安全落語で高齢者の交通安全をゆかいに啓発
●身体機能の衰えに関するビデオ上映（15分） 加齢にともなう身体機能に関するビデオ	
●敏捷性測定（10分） 「にぎるくん」を使った敏捷性測定	

年間250回実施

ドライビングシミュレーターによる安全運転診断



交通事故被害者の社会復帰のために

「介助犬」育成と普及への取組み



社会復帰支援施設の開設・運営



25,000人の社会復帰支援

中伊豆リハビリテーションセンター



別府リハビリテーションセンター

交通遺児育成募金活動



救急医療機器等助成

救急医療機関の救急医療機器
リハビリ機器の購入費用助成
年間約50医療機関に助成

ールを身につけることができるミュージカル形式の交通安全教室を独自に開発し、毎年全国各地で実施しています。また、高齢者は、身体機能の低下による事故が多いことから、まず自らの身体機能の低下を自覚してもらい、高齢者になじみのある落語で、高齢者の事故の特徴である「自分は大丈夫」という「過信」や「うっかりミス」への注意喚起を行う高齢者向けの交通安全教室を全国各地で年間250回程度開催しています。

さらに、今年度からドライビングシミュレーターを搭載したトラックを全国8拠点に配置し、巡回型の安全運転診断を実施しています。いずれの取り組みも非常に好評いただいております。

図3右側に示した交通事故被害者支援活動では、交通事故による身体障害者の身体介助を行う介助犬の育成・普及支援活動を展開しています。介助犬とは、手足が不自由な方の身体介助を行ってくれる犬です。この介助犬が必要な方は、日本では15,000人いるといわれていますが、現在、介助犬はまだ40頭しかいません。このため、介助犬育成団体への支援や、日本ではまだ認知度が低い介助犬の普及活動として、全国各地での介助犬のデモンストレーションを行っています。

また、昭和48年に全国2箇所に病院・福祉施設・介護施設の3つの機能を持った総合リハビリテーションセンターを開設し、これまで約25,000人の交通事故等による身体障害者

図4 健康管理・増進活動

ずっと健康であるために

レインボー体操（血液循環体操）の全国展開



誰でも簡単にできる体操で「肩こり・腰痛の解消」「生活習慣病予防」「リフレッシュ」効果がある。

これまで55万人を超える方々が参加

健康診断・人間ドック助成の実施



健康診断・人間ドック受診経費の一部を助成

これまで2800万人の方々に助成

「笑いと健康」教室の全国展開



年間250回開催

医学的にも注目されている「笑い」がもたらす健康への効果を取り入れた健康教室

なぜ「笑い」が健康にいいのかをビデオを通じて学び、参加者が一緒にゲームで大笑いして健康増進につなげるプログラム

健康・介護ほっとラインの実施



健康や介護、育児などに関する無料電話相談

年間3000～5000人の方々が利用

0120-481-536

利用時間 月～金曜日(祝日を除く) 午前9時～午後5時

歩く健康法の全国展開

様々な疾病予防に効果がある「歩く健康法」の小冊子と解説DVDをJAでの健康教室などの資料として提供

よくわかるポイント

- 4000歩(徒歩5分)以上——うつ予防
- 5000歩(徒歩7.5分)以上——生活機能低下の予防
- 6000歩(徒歩10分)以上——動脈硬化の予防
- 7000歩(徒歩15分)以上——骨粗しょう症、高血圧の予防

↓

- さらに8000歩(徒歩20分)以上では——体力低下、メタボリック症候群の予防

1日8000歩、その中で徒歩30分(20分)を確保するとさまざまな病気の予防につながります。

の社会復帰を支援しています。さらに、JAグループ関連の122の救急医療病院等を対象に年間約50病院にCTやMRIなどの救急医療機器の購入費用助成を行い、農村地域の救急医療体制の整備に寄与しています。

4. 健康管理・増進活動について

本活動では、協同組合のカラーである虹から名づけたレインボー体操という血液循環体操を開発し、誰でもどこでも簡単にできる体操として全国的に普及を進めています。

また、今、医学的にも注目されている「笑い」がもたらす健康への効果に着目し、笑い

と健康教室」を全国各地で開催しています。

さらに、病気を早期に発見する取組みとして、健康診断や人間ドックの受診経費の一部を助成し、これまでにのべ2,800万人（日本の人口の約1/4に相当）の方々の受診の促進を図っています。

5. 高齢者・身障者福祉活動について

高齢者の約15%を占める要介護者対策と約85%を占める元気な高齢者対策を実施しています。

図5左側に示したように、要介護者対策としては、左下の表にあるように、日本は世界

図5 高齢者・身障者福祉活動

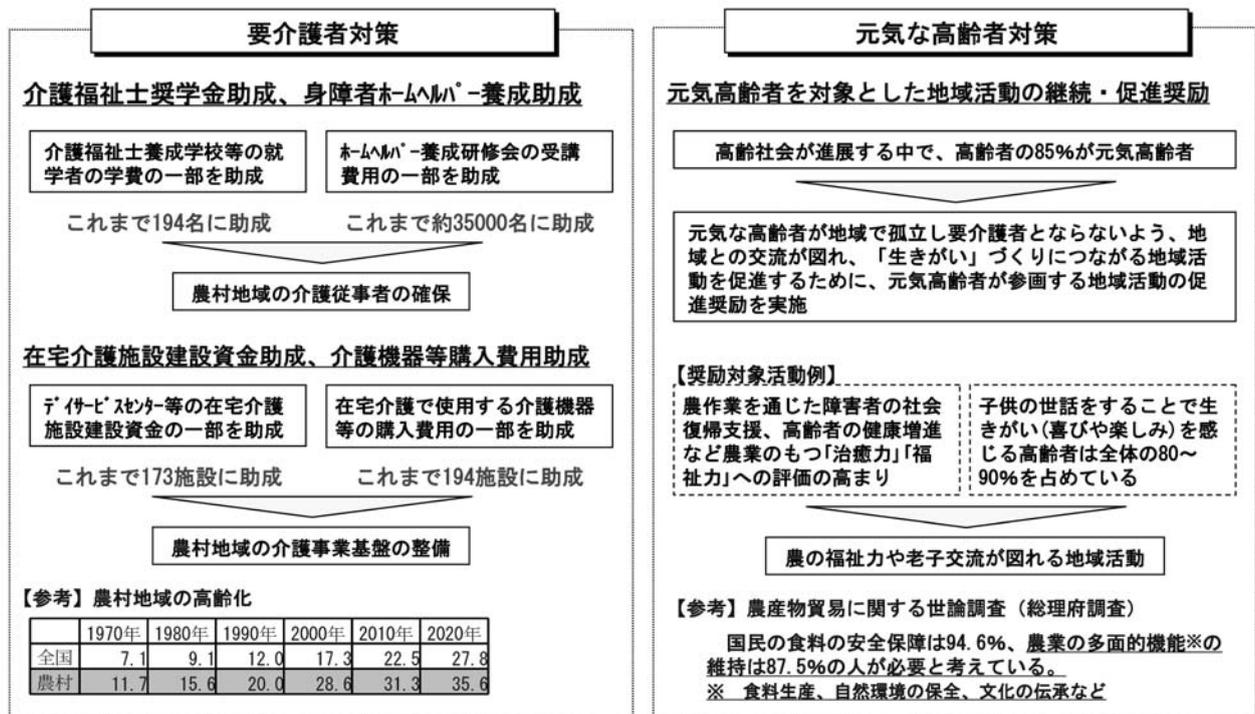


図6 保養施設運営、災害救援活動

保養施設運営

宿泊・保養施設一覧

- ① 札幌 国体選手村(大宮) TEL:011-852-2201 札幌市国体選手村(大宮) TEL:011-852-2201 敷設数: 50室
- ② 札幌 国体選手村(大宮) TEL:011-852-2201 札幌市国体選手村(大宮) TEL:011-852-2201 敷設数: 50室
- ③ 札幌 国体選手村(大宮) TEL:011-852-2201 札幌市国体選手村(大宮) TEL:011-852-2201 敷設数: 50室
- ④ 札幌 国体選手村(大宮) TEL:011-852-2201 札幌市国体選手村(大宮) TEL:011-852-2201 敷設数: 50室
- ⑤ 札幌 国体選手村(大宮) TEL:011-852-2201 札幌市国体選手村(大宮) TEL:011-852-2201 敷設数: 50室
- ⑥ 札幌 国体選手村(大宮) TEL:011-852-2201 札幌市国体選手村(大宮) TEL:011-852-2201 敷設数: 50室
- ⑦ 札幌 国体選手村(大宮) TEL:011-852-2201 札幌市国体選手村(大宮) TEL:011-852-2201 敷設数: 50室
- ⑧ 札幌 国体選手村(大宮) TEL:011-852-2201 札幌市国体選手村(大宮) TEL:011-852-2201 敷設数: 50室
- ⑨ 札幌 国体選手村(大宮) TEL:011-852-2201 札幌市国体選手村(大宮) TEL:011-852-2201 敷設数: 50室
- ⑩ 札幌 国体選手村(大宮) TEL:011-852-2201 札幌市国体選手村(大宮) TEL:011-852-2201 敷設数: 50室
- ⑪ 札幌 国体選手村(大宮) TEL:011-852-2201 札幌市国体選手村(大宮) TEL:011-852-2201 敷設数: 50室
- ⑫ 札幌 国体選手村(大宮) TEL:011-852-2201 札幌市国体選手村(大宮) TEL:011-852-2201 敷設数: 50室
- ⑬ 札幌 国体選手村(大宮) TEL:011-852-2201 札幌市国体選手村(大宮) TEL:011-852-2201 敷設数: 50室
- ⑭ 札幌 国体選手村(大宮) TEL:011-852-2201 札幌市国体選手村(大宮) TEL:011-852-2201 敷設数: 50室
- ⑮ 札幌 国体選手村(大宮) TEL:011-852-2201 札幌市国体選手村(大宮) TEL:011-852-2201 敷設数: 50室
- ⑯ 札幌 国体選手村(大宮) TEL:011-852-2201 札幌市国体選手村(大宮) TEL:011-852-2201 敷設数: 50室
- ⑰ 札幌 国体選手村(大宮) TEL:011-852-2201 札幌市国体選手村(大宮) TEL:011-852-2201 敷設数: 50室
- ⑱ 札幌 国体選手村(大宮) TEL:011-852-2201 札幌市国体選手村(大宮) TEL:011-852-2201 敷設数: 50室
- ⑲ 札幌 国体選手村(大宮) TEL:011-852-2201 札幌市国体選手村(大宮) TEL:011-852-2201 敷設数: 50室
- ⑳ 札幌 国体選手村(大宮) TEL:011-852-2201 札幌市国体選手村(大宮) TEL:011-852-2201 敷設数: 50室

災害救援活動

応急用仮設住宅貸与サービス

お住まいが台風などの自然災害や火災で居住できなくなったときに8か月間無償で貸与

年間200~300棟貸与

災害シートサービス

台風などの自然災害で家屋の一部が損壊した場合に無償配布

大規模災害時に15000~30000枚程度配布

図7 文化支援活動、各都道府県での取り組み

文化支援活動

全国小・中学生書道コンクール

一ねん小川けいと 五年か陽に 三年万物生光輝 四年考える力

2008年に52回のコンクールを開催
年間応募作品数は約130~140万点
日本一の規模のコンクール

全国小・中学生交通安全ポスターコンクール

2008年に37回のコンクールを開催
年間応募作品数は約16万点
日本一の規模のコンクール

各都道府県での取り組み

森づくり活動

交通安全傘の寄贈

カープミラ、救急車の寄贈

平成6年度からの累計
12,862基

※平成20年までの累計

平成6年度からの累計
119台

※平成20年までの累計

各種スポーツ大会の開催

一高齢化が進展していますが、そのなかでも農村地域の高齢化は全国平均よりも10年以上早く進展しています。そこで、農村地域の介護に従事する人材を確保するために、介護福祉士やホームヘルパーの養成助成を行うとともに、農村地域の介護事業基盤を整備するために、デイサービスセンター等の在宅介護施設の建設資金や介護機器等の購入費用助成を行っています。

図5右側に示す元気な高齢者対策では、高齢者の85%を占める元気な高齢者が地域で孤立し閉じこもり、いずれ要介護者となることがないように、地域との交流が図れ、「生きがい」づくりにつながる地域活動を促進することを目的に、元気高齢者が参画する地域活動の促進奨励を実施しています。

具体的な活動例としては、図5右下に示した、世論調査などで明らかにされた、食料生産・自然環境の保全・文化の伝承などといった農業の多面的機能の維持を望む国民が非常に多いという結果を踏まえ、農業がもつ「治癒力」や「福祉力」という癒し効果や、子供の世話をすることで生きがいに感じる高齢者が非常に多いことにも着目し、高齢者と子供が一緒になって農作業や自然環境の保全活動を行う取組みなどを金銭的に支援しています。

6. 保養施設運営、災害救援活動、文化支援活動など

保養施設については、組合員・地域住民の健康増進を目的に、全国17箇所に保養宿泊施設を設置し、運営しています。

また、災害救援活動として、火災や自然災害で家に居住できなくなった方に、図6右の写真にあるような応急用仮設住宅を年間200棟～300棟無償貸与したり、家屋の一部が損壊（窓ガラスが割れたり、屋根瓦がずれるなど）したお宅に災害シートを無償配布しています。

文化支援活動としては、昭和32年から次代を担う小・中学生を対象に、相互扶助や思いやりの精神を伝えていくことを目的に書道コンクールを実施し、今年度52回目のコンクールを実施しました。応募作品数は、毎年140万点程度であり、日本一の規模となっています。

以上が全国的に実施されている活動ですが、さらに、地域の実態にあったきめ細かな取組みを行うために、各都道府県においても、独自に「ふるさとの森づくり活動」や「カーブミラー・救急車の寄贈」、「サッカー・野球等の各種スポーツ大会の開催」などの社会貢献活動を実施しています。

J A共済の社会貢献活動のご紹介は以上ですが、J A共済は、本来事業である共済事業と車の両輪の関係で、こうした社会貢献活動を展開することにより、低価格で優れた保障の提供と、地域の方々が安心して暮らせる地域づくりに貢献し、地域との絆の強化を図っています。